

Challenger's VOICE



グループプロジェクトの一環として、若い女の子が本音を語り合うフリーペーパーが創刊された。詳細はホームページで、(<http://www.21merry.net>)



「あなたにとって Merryとは何ですか？」

PROFILE
水谷孝次 (みずたにこうじ)
1951年、奈良県生まれ。日本デザインセンター入社後、広告に関わり、制作作家として、商業美術の分野でアートディレクターとして活躍し、国際的な広告業の要員も多数。



会場内の床と壁には、一面にポर्टレートが投影された。会場にはニューヨークで録音した別の雑音の音声の流れ、臨場感のある映像が、オーガニクイベントでは、ニューヨークと会場を記録で結び、インタラクティブなワークショップも行った。

「ポジティブなメッセージが世界を駆けめぐる。そんなアートを作りつづけたい」
アートディレクター
水谷孝次さん

思がけぬ笑顔に出会うと、ふと優しい心持ちになる。
アートディレクター・水谷孝次さんの作品は、そんなくたくのない笑みを浮かべる女性たちのポर्टレート写真だ。ただ、今回制作のために彼が向かった先は、同時多発テロから1年後のニューヨーク。「負の出来事に見舞われた場所。そこに暮らしている人々に力強いエネルギーを感じたんです」と水谷さん。そのポर्टレートには、「あなたにとって Merry(メリー)とは、何ですか?」という質問に対するメッセージを添えて展示し、それが彼がここ数年、米続けざまにアート活動「メリープロジェクト」のタイトルだ。

「メリー」の意味がある「ニコニコ」というキーワードを思いだしたのは日本の景気が悪くなってきたころ。社会を明るくしようと願った女の子たちに注目したんです。『笑顔のポर्टレート』彼女たちにとってメリーなことを記した写真を発表した。「男はね、笑えないんですよ。いろんなしがらみやプライドが必要をする。でも若い女の子たちは逆。彼女たちのメリーが必要だと感じます」。そして震災後の神戸。そして今回のニューヨークと場所を移す。今にアトキも徐々に変わっていき、「最初はフツフツ性を重視していたんです。それが神戸の震災のとき、アトキとしてのカンのようなものが働いて、いま自分のすべを教えてくれた」。作品作りのコンセプトとして「ミニマリズムを強く意識したつもり。このころから、神戸では工事現場の壁に作品を展示した。『オースティン場所です段段はアトキに興味ない人にも見て欲しかったんです」。

す。ストリートなラッセシと笑顔は誰にでも伝わるから」
[Love the good work! (Inner peace)]
[Keep on smiling! — 満面笑顔を浮かべるニューヨークの女性たちからは、シブブルありながら、心の深いところから湧き上がってきたようなエネルギーが伝わってくる。]「もともとニューヨークは人権のつば、自分の力で考え、その考えを主張しなければ生きにくい街なんです。その場所、あんな事件が起きた。悲劇を知ったからこそ、本当の幸せがわかるんです」。

ポジティブなメッセージが、笑顔という万国共通の言語とともに地球を駆けめぐる。「メリープロジェクト」を通じて、そんなアートを続けていき、いっしょに水谷さん、それが「僕にこのメリーな」と言



六本木で行われたエキシビション「MERRY IN NEW YORK」では、フリーペーパーも作成して会場で配布した。水谷さんも会場でお客さんに直接会話しながらフリーペーパーを配ると、笑顔ニコニコで反応していた。